

第2節 生態系・鳥類

現在の三番瀬は、埋立てによる海域面積の減少と河川とのつながりの弱まり、後背湿地の消失、地盤高の低下等による浅海域化、周辺部の都市化等、多くの急激な変化により干潟環境の多くが失われました。このため、干潟環境に依存して生息する水鳥類、魚類、~~や~~底生生物、~~またや~~水生植物の中には多くが姿を消したものがあります。~~その他の生物のまた、種類数の減少以外にも、~~や~~個体数の~~も~~減少~~又は一部の増加傾向等、生息状況が大きく変わったものもあり、~~も、~~生態系も変化しています。ました。

~~また、三番瀬は現在でも多くの水鳥類が依存する重要な湿地ですが、個体数の減少した種や営巣しなくなった種もいる等、生息地としての重要性の低下が指摘されます。~~

それでもなお、三番瀬には多様な自然環境が存在し、水鳥をはじめとする多くの生物が生息しています。

このことから、多様な環境をこれらを損なうことなく保全し、~~かつての~~健全で豊かな生態系の回復や、干潟に特有な生物種の回復復活を図り、生物多様性を高め、様々な生物種が安定して生息できるようにすることが重要です。

そのため、現在残る干潟的環境を保全し、さらに~~な~~多様な環境の復元創造を目指すとともに、行徳湿地や河川等と三番瀬の連続したつながりの回復を目指します。

三番瀬の生物・鳥類



(ニホンドロソコエビ)



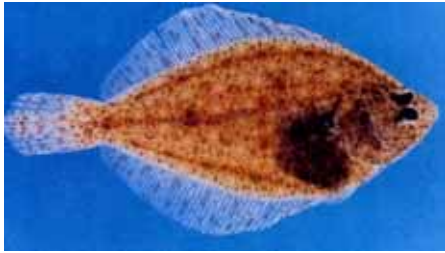
(アシナガゴカイ)



(アサリ)



(イシガニ)



(イシガレイ (稚魚))



(マハゼ (稚魚))



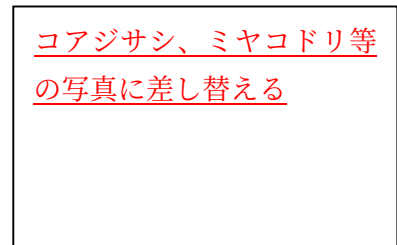
(アナアオサ)



(スサビノリ)



(ハマシギ)



~~(キアシシギ)~~



(スズガモ)



(シロチドリ)